

甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和3年2月4日(木) 作成

校長 「内藤 和彦」

記述者 職名 (教頭)「堀内 貴司」

学校教育目標 『やさしく かしこく すこやかに』

- (1) 心豊かで 思いやりがある子ども
- (2) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- (3) 心身共に健康で安全な生活をめざす子ども

学校経営目標

- (1) 生きる力の育成 ～心の教育の充実を基軸に三つの力をバランスよく育む～
- (2) 学校・家庭・地域の連携 ～開かれた信頼される学校づくりの推進～
- (3) 職員の資質の向上 ～教師こそ最大の教育環境であることを意識した実践～

学校経営の基本方針

- (1) すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- (3) 確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- (4) 体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。
- (5) 児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- (6) 不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- (7) 教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- (8) 学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- (9) 児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- (10) 特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童の共通理解と適切な指導に努める。
- (11) 学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い育てるといった基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- (12) 教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- (13) 教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。
- (14) 開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信しつつ、家庭や地域社会との連携や学校評価システムの効果的運用を図り、教育効果を高める。

本年度の努力点

- (1) 新学習指導要領の理念と本校の特色の実現を図るカリキュラム・マネジメント
- (2) 誰にでも居場所があり、学び合う学級集団づくりの実践
- (3) ICTも活用した楽しく、わかりやすい授業の実施
- (4) いじめ、不登校、特別な支援を必要とする児童等への効果的な支援・指導の実践
- (5) 実践的な防災・減災・安全教育の実践
- (6) 働き方への社会的要請事項をふまえた教育・職場環境づくりの実践

1 全体評価

※「（　　％）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合を表している。

【教職員】

- 肯定的回答（A・B）の平均が96.1％と高い評価であり、全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。
- ・次の3つの設問については、他の設問と比べると評価がやや低いので、改善を図っていく必要がある。
 - 「あなたは、校務支援システムを十分活用できていますか。（78.1％）」
 - 「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。（78.4％）」
 - 「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。（81.6％）」

【保護者】

- 肯定的回答（A・B）の平均が82.6％と高い評価であり、多くの保護者が学校の教育活動に対して信頼を寄せているとうかがえる。
- ・学校の教育活動に関する設問では、「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。（94.2％）」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。（93.1％）」が、評価が高い。
- ・「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。」の設問は、67.0％と他の設問と比べて低い評価である。今年度は例年6月に実施している道徳授業参観が、コロナ禍のため実施できなかったことも一因ではないかと考える。

【児童】

- 肯定的回答（A・B）の平均が88.4％と高い評価であり、児童は生き生きと学校生活を送っていると感じられる。
- ・「先生はよく勉強を教えてください。」という設問においては、98.9％と非常に高い評価である。授業を通して児童一人一人に確かな学力を身に付けさせることが学校の最も大きな役割である。学力の定着に向け、教職員一人一人が努力を重ねてきた成果であると言えよう。今後も全教職員が日々の研鑽を積み、児童の実態把握に努め、より一層の学力向上を目指していきたい。
- ・次の2つの設問については、他の設問と比べると評価がやや低いので、改善を図っていく必要がある。
 - 「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。（73.5％）」
 - 「授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。（75.3％）」

【保護者・児童】

- 家庭での生活において改善したい項目は、以下の通りである。
- ・「（お子さんは）家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」の設問では、「2時間以上使っている。」と回答している保護者が24.8％（166人）、児童が34.3％（230人）ある。
- ・「（お子さんは）家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」の設問では、「全くしない。」と回答している保護者が30.9％（207人）、児童が17.2％（115人）である。
- ・「朝ごはんを食べて登校していますか。」
 - <保護者>「あまり食べていない。（9人）」「食べていない。（3人）」
 - <児童>「あまり食べていない。（21人）」「食べていない。（9人）」
- ・児童アンケート「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」の設問では、「午後11時以降」と回答している児童が、37人である。

2 設問ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、99.4%である。「学校教育目標」「学校経営」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」の設問では、半数（51.2%）がBを付けている。 ・「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」の設問では、2人がC（ややそう思わない。）と回答している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。」の設問では、A回答（67.4%）がB回答（32.6%）を上回っている。学校全体としてはPDCAサイクルがしっかり機能しているので、教職員一人一人にさらに意識して取り組ませていく。日々の教育活動が、子どもたちにとって意義あるものとなるよう、前例踏襲という形にならないように、反省をしっかりと生かして改善を図っていく。 ◆年度始めに、多忙化改善計画として「会議等の効率化」「学校行事の負担軽減」「校内組織の見直し」「業務の効率化」「地域人材の活用」を掲げ、取り組んでいる。今後も一層推進していく。 ◆全体的に退勤時刻が遅かったり、休日出勤する教職員もいたりする現状がまだまだある。授業準備、成績処理、学級事務等の時間の確保には、県、市当局に教職員の加配をお願いするなど、財政が厳しい折であるが、人的な措置が必要である。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、94.5%である。教職員それぞれが、双葉東小教職員の一人であると自覚し、協力して学校運営に参画していると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理、報告（整備、保全）している。」の設問は、A回答（とてもそう思う。）が81.6%である。点検場所の分担をしっかりと決め、隔月に安全点検日を設けて実施している成果と言える。 ・「あなたは校務支援システム十分活用できていますか。」の設問は、C回答が8人、D回答が1人である。 ・「あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」の設問は、C回答が4人である。 ・「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」の設問は、C回答が4人、D回答が1人である。 <p>【保護者】「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。（92.8%）」</p> <p>【児童】「学校は楽しいですか。（93.6%）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が、児童にとって好意的な場所となっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度から校務支援システムが導入された。その機能を十分活用するためには、操作方法の習得が不可欠である。有効利用できるように、今後も研修を行っていく。 ◆危機管理マニュアルの内容が教職員に十分理解されるように、定期的に分担や対応を確認したり、より実践的な訓練を行ったりしていく。また、様々な状況を想定し、児童の安全を第一に考えた対応ができるように、毎年その内容を検討し、改善を図っていく。 ◆今年度の校内研究は、研究主題「ともに学び合い、自己の学びを深める子どもの育成」、副主題「必然性のある言語活動を通して、伝え合う活動を充実する外国語の授業」を掲げ、充実した校内研究が行うことができた。全教職員が主体的に取り組むことができるように、今後も研究主任を中心に校内研究を推進していく。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、95.4%である。誰もが「わかる授業」を目指し、教職員一人一人が日々努力を重ねていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」の設問は、C回答が4人である。 ・「あなたは、外国語、国際理解教育の学習が充実したものになるよう、努めている。」の設問は、C回答が3人である。 <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国語の授業は好きですか。（79.0%）」の設問は、肯定的回答（A・B）の割合がやや低い。 ・「先生はよく勉強を教えてください。（98.9%）」 「学校の授業は楽しいですか。（88.0%）」 「国語の授業の内容はわかりますか。（94.4%）」 「算数の授業の内容はわかりますか。（95.0%）」の設問は、どれも肯定的回答（A・B）の割合が高い。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。（93.1%）」 「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。（86.6%）」 ・「（児童の回答）宿題を忘れずにしていますか。（93.1%）」 「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか。（96.1%）」の設問は、肯定的回答（A・B）の割合が高いが、「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。（55.0%）」の設問は、肯定的回答の割合が低い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童が主体的に取り組めるように、授業改善を図っていく。特に外国語の授業については、校内研究の成果と課題を踏まえ、授業を実践していく。 ◆毎年年度始めに、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付している。今後もこの取組を継続し、家庭学習について、学校と家庭が連携して支援していく。
Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、98.5%である。教職員それぞれの努力、家庭・関係機関との連携、また、情報を共有し、全教職員共通理解のもと指導にあたることにより、児童は落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができている。」 「あなたは、生き方教育（キャリア教育、進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」の設問は、A回答よりB回答の方が多い。 <p><将来の夢や希望></p> <p>【保護者】 「お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。（73.8%）」</p> <p>【児童】 「将来の夢や希望をもっていますか。（87.1%）」</p> <p><規範意識></p> <p>【教職員】 「あなたは、児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。（100%）」</p> <p>【保護者】 「学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。（89.1%）」</p> <p>【児童】 「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。（94.2%）」</p> <p><教師と児童の信頼関係></p> <p>【教職員】 「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。（97.6%）」</p> <p>【保護者】 「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。（A回答いる：67.1%）」</p> <p>【児童】 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。（A回答いる：79.6%）」</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「子どもの心を大切にする。」をキーワードに、きめ細かな指導の支援を行うとともに、スクールカウンセラーの活用を含め、児童や保護者から相談しやすい体制を築いていく。 ◆今年度からキャリアパスポートの作成に取り組んでいる。児童が自己を見つめ、将来の夢や希望をもつことができるように、継続的に指導していく。

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は92.3%である。概ね達成できているが、全体評価に記したように、「地域の人材や施設の利用、地域の教育力を生かす指導（C回答が7人）」「学校に対する要望等を聞くなどの機会の設置、情報収集の実施（C回答が8人）」の設問は、他と比べて肯定的回答（A・B）の割合が低い。</p> <p><広報活動></p> <p>【教職員】「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。（97.7%）」</p> <p>【保護者】「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子をすることができる。（94.2%）」</p> <p><保護者・地域の声に耳を傾けている。></p> <p>【教職員】「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。（78.4%）」</p> <p>【保護者】「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。（84.6%）」</p>
改善策	<p>◆新たな課題への対応、児童や保護者の多様なニーズに対応するためには、学校と地域の連携は、なくてはならないものである。今年度はコロナ禍のために、地域の人材や施設の利用に制限があったが、今後も地域との連携を深めていくための準備を行っていく。</p> <p>◆より良い教育活動を行うためには、保護者や地域住民の意見や要望に、誠意をもって対応し、信頼関係を構築していく必要がある。そのためには、日頃のコミュニケーションを大切に、情報を発信したり収集したりして、相互の信頼関係を築く努力を続けていく。</p>
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は97.2%である。「学校の特色」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたの学校は、授業参観や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している。（C回答が4人）」</p> <p><挨拶></p> <p>【教職員】「あなたの学校は、児童が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。（97.7%）」</p> <p>【保護者】「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。（78.8%）」</p> <p>「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。（91.3%）」</p> <p>「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。（95.3%）」</p> <p>【児童】「だれとでもあいさつをしていますか。（85.6%）」</p> <p><読書活動></p> <p>【教職員】「あなたの学校は、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。（97.7%）」</p> <p>【保護者】「学校は、朝読書などの読書活動に力を入れて取り組んでいると思う。（88.9%）」</p> <p>【児童】「朝読書をごんばっていますか。（92.8%）」</p> <p><心の教育></p> <p>【教職員】「あなたの学校は、心の教育が充実したものになるよう、努めている。（100%）」</p> <p>【保護者】「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。（67.0%）」</p>
改善策	<p>◆今後も、学校の特色を生かした教育活動〔挨拶運動、読書活動、児童会活動、みどりの時間（全校集会）、心の教育〕が充実したものになり、児童が生き生きと学校生活を送れるように、全教職員が協力して推進していく。</p>

3 まとめ

<成 果>

- ・教職員自己評価，保護者アンケート，児童アンケートとも，全体的に肯定的に評価されており，学校教育目標，学校経営目標を達成できたのではないかと考える。

<課 題>

- ・評価項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるという認識を確かなものにして，学校，保護者，地域が連携しながら，引き続き豊かな教育活動の推進を図って参りたい。